

第3回定例会

決算審査特別委員会の質疑の主なものを要約し掲載しました。

・決算審査特別委員会質疑の中から①

決算審査特別委員会委員長報告

(要旨)

平成24年度の財政運営は、長引くデフレ傾向の経済情勢にあつて、地方交付税をはじめ各種制度に基づく補助金・交付金、使用料、町債等の歳入を確保し、歳出においては、維持管理経費の低減に努めながら、第1次産業の基盤整備、住みよいまちづくりに努め、創意工夫により最小の経費で最大の効果を上げ、効率的な財政運営に取り組みましたと認めるところであります。

今後、第4期総合計画に沿った町民の生活に必要な事業が計画され取り組まれていくわけですが、限られた費用で事業の緊急性や優先度を的確に判断し、長期的な視点に立ち、そして事業の選択と集中により、将来負担の軽減に努め、健全で持続可能な財政運営のまちづくりに取り組まれることを望むものであります。

総務費

(質) 役場庁舎の電気料金は年間いくらかかっているのか。

また、9月から値上げされるが予算不足にならないのか。

(答) 24年度の使用料は約170万で、23の法人契約をしているが、そのうち9月から値上げされるのが5つの契約で、残りは26年度からとなります。

予算については節電効果なども見ながら不足が予測されれば補正したいと考えています。

(質) 町有財産の管理において、使用実態の調査はされているか。

(答) 23年から2年間で台帳管理からパソコンによる管理へ移行する際、台帳と現地の状況を照合しており、適正に使用されていると認識しています。もしも、無断使用など

決算審査特別委員会質疑の中から

が発見されれば適正な手続きをするようにしていきます。



旧若佐小学校に建設されたメガソーラー

民生費

(質) デマンドタクシーの利用状況は。

(答) 24年度は延べ1139人が利用し、地区別では共立、大成、栄、啓生、川西、富丘の第1地区が156人、栃木、中園、若佐、武士、朝日、西富の第2地区が189人、浪速、幌岩、浜佐呂間の第3地区が331人、知来、



放課後児童館で勉強する子供たち

仁倉、東の第4地区が287人、富武士、若里、北の第5地区が176人となっていて、運行開始した22年と比較すると減少しているが、老人クラブなどでも説明しております。認知はされているものと思います。

(質) 児童館職員の研修は行われているのか。

(答) どういった遊びがあるのかという内容の研修が年1回あるが、なかなか参加できない状況なので、今後参加できるようにしていきたいと思っております。

第3回定例会

・決算審査特別委員会質疑の中から②

農林水産業費

(質) 農業委員会の給料と手当の不用額は、どうして発生したのか。

(答) この予算は農業委員会の職員2名分となるが、給料減額の改正があったためです。

(質) 地場産品研究センターに24年度調理用備品が購入されているが、これによって利用者の増加や新たな研究・開発などの効果があったか。

(答) 利用人数は23年度と比べて大差ないが、利用日数は例年105日から110日ぐらいいの対し、24年度は1



更新されたオープンでパンをつくるご婦人方

30日と増加しています。これは昨年度購入したオープンなどの備品によりパンを焼いたりという利用が増えたものと思われ、新たな研究・開発というより、婦人部など仲間が集まり楽しむといった利用が多いようです。

(質) 林業振興費で不用額がでた理由は、

また、林業振興にどう取り組み今後につなげていくのか。

(答) 不用額については、大きな事業が取り止めになったわけではなく、実施した事業の残額が積み重なったものです。

林業振興については、民有林は町が助成しながら適切な管理をしていただき、町有林は計画的な管理を行い町の林業を守っていききたいと考えています。

商工費

(質) 商工費の負担金補助及び交付金の不用額が226万円あるがその理由は、



東京港区の物産展

(答) 商工会運営費、プレミアム商品券、トーヨータイヤ販売促進事業、中小企業資金利子補給、住宅建設促進事業の5つの補助金の残額で、これらは3月末まで額の確定ができないことから予算の減額を行わなかったためです。

(質) キムアネップの民宿周辺は乱雑な状態で観光地としては景観がよくないが指導などしているのか。

(答) 個人の所有物なので、町としてどこまで指導できるかわからないが、改善できるよう努力していきたい。

(質) 物産展への参加状況と参加による効果は、

(答) 24年度、道外では東京

第4回定例会は12月に開催されます!!

日程の詳細は、町広報12月号の折込みチラシをご覧ください。



第3回定例会

・決算審査特別委員会質疑の中から③

(質) 緊急性のある道路や新規認定された砂利道を優先的に進めていきたいと考えるが、具体的には佐呂間教会裏道路、若佐保育所前道路を始め、西富団地1号、2号道路

(質) 今後町道の改良舗装工事はいつから進めたいのか。

土木費

効果については、すぐに結果が出るものではないと考えるが、それなりの販売実績もあり、PRに十分努めているのではないかと考えています。

を中心に三田カーニバル、麻布十番商店街、新橋、港区の4つの物産展に観光物産協会を通じて参加し、東京近郊在住の佐呂間町出身者の協力もいただきながら海産物等の販売や町のPRをしています。
道内では、札幌のオータムフェストに佐呂間、湧別、北見のサロマ湖3市町で構成するサロマ湖観光物産振興協議会で出店し、佐呂間町の観光PRを行っています。

現在は18台の除雪車両を職員4人と委託の運転手で行っており、26年度以降の体制については、町道の維持や水道業務も含めた中で、現在協議しているところです。

(質) 24年度は除雪に係る重機借り上げと除雪業務委託の合計で3500万円程度要しています。

(質) 町道の除雪は年間いくらかかっているのか。
また、今後の除雪体制はどうするの。

また、若里基線道路は今後3、4年かけて整備していきたい。



工事が進む若里基線道路

を順次進めていきたいと考えています。

(質) 24年度の図書館の図書購入数と蔵書数は。また、図書館の利用状況は。

教育費



緊急出動に備え毎朝行われる始業点検

(質) 24年度の火災と救急の出動回数は。
(答) 総出動数は240件で、火災での出動はありません。内訳は急病が151件、交通事故が11件、水難が3件で、その他一般負傷となっております。

消防費

議会だよりに対するご意見・ご感想を

お寄せ下さい！

----- 議会事務局宛て -----

TEL 2-1291

Eメール

gikai@town.saroma.hokkaido.jp



第3回定例会

・決算審査特別委員会質疑の中から④

(答) 2869冊購入し、9万9392冊の蔵書となっております。



たくさんの本が並ぶ図書館

24年度の貸出数は5万5458冊で、23年度より6%、3632冊少なくなっているが、過去10年で見ると平均的な数となっております。
年代別では、6歳から11歳、30歳から39歳が多く、30代では女性の方の利用が多い状況となっております。

(質) 小中学校の教科書はど
ういう人たちがど
ういう観点で採
択しているのか。

(答) オホーツク管内18市町村の教育委員会から教育長が選考委員となり決定するが、その際、各市町村の先生やPTA、学識経験者などからな

る専門委員会に諮問し、その専門委員会が各教科ごとに検討したものの答申を受けることとなります。

その決定した内容が各市町村の教育委員会で採択されま
すので、管内統一の教科書となり、市町村が独自に採択する形にはなっていません。

(質) 小中学校の学力テストの結果はどうだったか。

(答) 24年度の小学校については、オホーツク管内は北海道の中でも最低に近いところ
にあり、本町も同様の状況だが、中学校については全国平均より上の位置にあると考えています。

また、小学校においても全国との差はだんだん縮まってきていく状況です。

予備費

(質) 一般会計の中で予備費からの予算流用が多くみられるが、できるだけ補正予算を組んだほうがいいと思うが。

(答) 基本的には補正予算で対応すること考えているが、冬期間の暖房機の故障な

ど急を要するものについては、予備費で対応してしま
す。

そのほかには、24年度では
中学、高校の部活の全道大会出場への補助や佐呂間小学校のことばの教室開設に係るものなど、補正予算まで待てない状況のときに予算流用している現状だが、今後の予算運営に当たっては予算計上の考え方を基本に持ちながら進めていきたいと思います。

歳入

(質) 町税の未納額が生じた理由とその対策は。

また、不納欠損の状況は。

(答) 景気の低迷などから給料削減や雇用期間の短縮等、地域経済の情勢が影響していると思うが、未納額は微増の傾向で滞納者が固定化してきて、1人当たりの滞納額が高額化してきている状況です。

対策としては、未納者の実態把握、その後個別に訪問し計画的な支払いを進めるための納税相談を行いながら全庁的な取り組みを進めていきたいと思います。

不納欠損については、町民税8件、固定資産税11件を行ったが、5年経てば時効で簡単に不納欠損するというような考え方はなく、本人の生死や財産・預貯金などの状況を的確に判断した中で、できるだけ不公平がないような形で、最低限の不納欠損を行っている状況です。

(質) ワクチン接種緊急促進事業の対象はどのようなものが該当するのか。

また、24年度の子宮頸がんワクチンの接種人数は。

(答) 25年度から町が全額助成する定期接種になった子宮頸がん、ヒブ、肺炎球菌ワクチンの3つが対象です。

子宮頸がんの対象者は中学2年、3年生51人で、そのうち接種したのが41人となっております。

なお、子宮頸がんワクチンは、25年度から定期接種になったが、副作用的な問題があるため、国の指示により積極的な勧奨はしておらず、今のところ本人と保護者の意思により接種する状況となっております。